小樽ゆねすこ

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

（ユネスコ憲章前文より）

母さんが夜なべをして

会長 **丸　田　謙二郎**

この歌を口ずさむたびに、遠く過ぎ去ったあの頃を想い出します。「かあさん」が「かあちゃん」でも「おかん」でもなく、「おかあさん」でもないのです。また「夜なべ」など今の人には通じないであろうし、分かる人ももう少なくなってしまいました。母が家の中心で、父さんの出番はあれど、母さんはまた格別でした。

その人は84歳を目前にして逝ってしまいました。2002年、父が他界する10日前のことでした。仲の良い二人だったと皆が言います。それにつけても、幾つになっても母の力は偉大だったとつくづく思う今日此の頃です。

思えば、その頃女性が各地、各方面で活躍していたとは言えません。

女性は男性を支える陰の存在ですらあったと言っても良いでしょう。それから時が流れ、女性の社会進出、地位向上が叫ばれてから久しくなりますが、遅々として進んでいないように思われてなりません。世界を見渡しても日本の在りようもまだまだの感があります。ユネスコなればこそ、行動を新たにしたいものです。

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

市教委より来賓をお迎えして　定例総会

ゲームで盛り上がった新年例会

あなたもユネスコの仲間に！

◎ユネスコ活動って?

第２次大戦終結後、国連にUNESCOが設立され、善良な隣人として互いに平和な生活ができる世界をつくるため努力しようと「ユネスコ憲章」が定められました。
その理念や精神に共鳴した人々によって、1947年、世界に先がけて仙台から発信されたのが、市民の立場でUNESCOを支援していこうという民間ユネスコ運動です。

民間ユネスコ団体は、100ヶ国に約4,000あり、現在、日本国内には280協会、道内には20のユネスコ協会があります。

◎小樽ユネスコ協会

北海道では、1948年に札幌で、翌49年に小樽ユネスコ協会が道内２番目に発足しました。
以来、全国のユネスコ協会と力を合わせて世界寺子屋運動や東日本大震災子ども基金の継続的な支援に協力し、英語教育やコミュニケーションの分野にも力を入れて取り組んでいます。

◎いつでも入会できます。

・年会費　4,000円（正会員）　5,000円（維持会員）
　　10,000円（賛助会員）
・ホームページ　http://www.unesco.or.jp/otaru/
・e-mail　otaru@unesco.or.jp
・問い合わせは TEL 54－2075 安達

◎書き損じハガキ…は何の役に立ってるの？

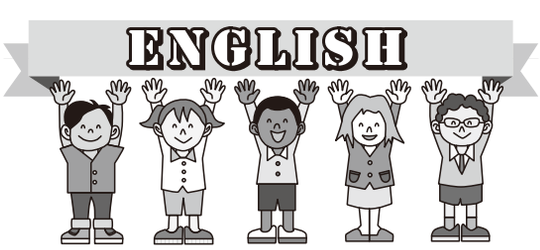
民間ユネスコの主要な活動である世界寺子屋運動支援のため、書き損じハガキや未使用テレカを寄付していただき、企業の協力で現金化して寺子屋の建設や学用品の購入、大人の職業訓練などに使われます。
通年回収しています。ご協力をお願い致します！

ユネスコ
小３からの英語講座

生涯学習プラザを会場として、2017年5月10日～６月28日毎週水曜日午後4:00～5:00全８回にわたって「わくわく子育て講座」の一環として行われました。講師は小樽ユネスコ協会会長・元小樽短大教授丸田謙二郎。対象は小３～小４、定員15名、無料で募集しました。申込みは e-mailでおよそ10名が参加しました。2020年から始まる小学校英語教育に向けての関心は高く、熱心な学習態度でした。この事業は、民間の塾などとは違うユネスコらしさを意識しつつ実施しました。

（丸 田 謙二郎）

修了証書をもらいました！



ユネスコ小5からの英語講座を終えて

理事 星　功

2017年、小樽ユネスコ協会は「小樽ユネスコ協会英語講座」（受講料無料）を実施しました。講座は「小３からの英語」と「小５からの英語」の二講座で、私は外園知代さん（ユネスコ協会理事）とチームを組み、「小５からの英語」を担当しました。文部科学省は次期学習指導要領の改訂で2020年より小学５年から正式な教科として取り入れることを決めているので、小樽ユネスコ協会では新要領実施に先立ち、一人でも多くの小学生に英語への親しみと学ぶ楽しさを体験してもらう事を目標としました。

「小５からの英語」は8/23～10/11、毎週水曜日 4:30～5:30pm、合計８講座、生涯学習プラザレピオで行いました。小５、小６の子どもたちにとっては初めてアルファベットに遭遇する事を仮定し、ABC…XYZ の発音から始め、英語による簡単な自己紹介、CDを使用しての簡単な歌、道順を外国人に教えることなど、この講座の為に特別に用意した多くの絵図面を使用し、参加した子ども達に（保護者にも）好評でした。

第４講座からは小樽市のALT（英語圏から派遣されている英語教師）の支援で講座は更に充実したものとなりました。この講座は終始自然な英語で行われ、保護者の方たちも参加して、英語学習の楽しさを味わってもらえたことはプラスの効果があったと思います。参加者数は９名と多くはなかったものの全員最後まで受講し、終了しました。

第43回小樽ユネスコ英語祭を終えて

英語委員長　吉　田　道　夫

開催主旨は子ども達の英語のコミュニケーション能力の向上であり、小樽ユネスコ協会の中核的活動といえる英語祭は今年43回目を迎え、10月29日（日曜日）小樽市公会堂大ホールにて行われました。

出場者はやや少な目で、小樽市の新ALT２名のスペシャルスピーカーを加えて28名でしたが、内容的には例年通り日頃の英語学習の成果をしっかりと発表してくれたと思います。

今回は英語の歌や劇の参加はなく、暗唱部門５名、スピーチ部門21名の出場であったため、当日の会場は、足を運んでくれる聴衆もいつもより少なめな印象でした。

毎回実施要項の発送に始まって種々の依頼、準備など実務を担ってくれる事務局の面々、そして当日の役割分担にしたがい約20名のユネスコ会員がスタッフとして協力し運営にあたりました。また、プログラムの体裁が今回からB4の二ツ折となった事が新たな変更点です。

開会式では、林教育長より小樽市の教育に対する情熱のこもったご挨拶をいただき、公務が重なった為開始後に遅れてご臨席の森井市長からも、出場者に励ましの言葉をかけて頂きました。

今回の特別スピーチは小樽市教育委員会所属のALT２名で、ジャマイカ出身のキモン・スチュアートさんは故郷ジャマイカの紹介を、南アフリカ出身のゾシャ・ルビアンさんからも南アフリカへの愛を込めた紹介がそれぞれ映像を使ってなされました。ふたつの国は当日参加した生徒達にとってあまり馴染みのない国だったようで、とても興味深く熱心に耳を傾けていたように見受けられました。

また、今年は英語によるレクリエーションの時間を設け出場者と外国人との交流を試みました。

例年の休憩時や終了時の交流だけでなく、ゲームをして楽しんだ事でより距離感が縮まり異文化の交流に興味を持ってもらえたのではないかと推察しています。

今年も外国人３名、日本人３名の審査員によって審査が行われ、講評では「発音と表現力が重要である」と強調されておりました。

その点では、小樽ユネスコ協会会長賞を獲得した桂岡小３年生、大澤樺音さんの発表はすばらしかったと思います。

“About me”というタイトルで、英語を学習する目的は「世界中に友だちを作りたいから」そして自分の趣味の音楽のことなどを丁寧に表現していました。何よりも独学（衛星放送など）で学んでいると聞き感心しました。

本年から６名に増員されたALTの皆さんが、審査員・特別スピーチ・レク担当とそれぞれ役割を担ってご協力下さった事を感謝致します。

又当日は病気療養後久し振りに顔を出された元副会長坪谷雍子先生が、車椅子ながら出場者へ簡単なアドバイスをして下さり、長い間かかわってきた英語祭への強い想いを感じて感慨深いものがありました。

次回も英語に対するチャレンジ精神を発揮してたくさんの出場者があるよう期待しています。

第43回小樽ユネスコ英語祭特別賞 受賞者

賞　名	部門	氏　名	学校・学年
小樽ユネスコ協会会長賞	スピーチ	大澤樺音（おおさわかのん）	桂岡小学校 3年
小樽市長賞	暗唱	澤本佳奈	札幌静修高 1年
小樽市教育委員会教育長賞	暗唱	惣坊茜音（そうぼうあかね）	双葉中学校 3年
国際ソロプチミスト小樽会長賞	スピーチ	二村菜々子	望洋台中学校 2年
北海道新聞社賞	スピーチ	梶原のん	高島小学校 4年
STV賞	スピーチ	畠山柊太（はたけやましゅうた）	朝里小学校 3年
努力賞	スピーチ	石森裕佳	稲穂小学校 2年
努力賞	スピーチ	石澤暖大（いしざわだいた）	入船小学校 6年
努力賞	スピーチ	小野佳惟（おのかい）	菁園中学校 2年

第2回「絵で伝えよう私の町のたからもの」ユネスコ絵画展

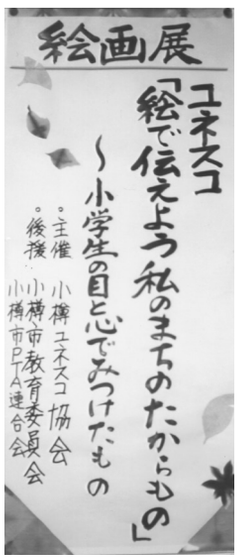
昨年に引き続き日本ユネスコ協会連盟青少年活動助成を受けて、第２回ユネスコ絵画展を実施しました。

５月29日第１回実行委員会を開催して募集要項・展示公開日などを決定、小樽市教育委員会と小樽市PTA連合会からの後援をいただいて６月12日市内全小学校に要項、ポスター類を配布し応募開始日（12月１日）を待ちました。

昨年の第１回絵画展は、新規参入の絵画展ということで学校現場の知名度も無く、周知の為に実行委員長が学校への依頼活動をしても応募数は12枚にとどまった反省から、今回は訪問依頼に加えて受付開始案内を11月に配布、その結果７校（絵画教室からの出品を含めると10校）と１絵画教室から51作品が集まりました。「自分の身近かにあるもので未来に残したいもの」というテーマに沿って多彩な題材の作品が寄せられましたが、小樽港や小樽運河の絵が多かったのは、授業での写生場所として選ばれることが多いためだと思われます。

専門家による審査を経て13名の受賞者を決定、12月16・17日（土・日）小樽市美術館市民ギャラリーにて全作品を展示公開しました。同時開催の他の美術展への来場者も足を運んでくれたため、両日で300名近い入場者があり、17日には同会場で表彰式を行いました。

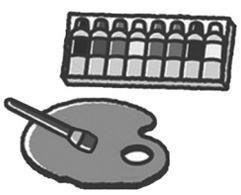
青少年へのユネスコ普及という目的もあり、「ユネスコらしい」事業として今後も継続していきたいものですが、事前事後の作業も含めて応募校への作品受け取り・返却・美術館での展示・撤去などなど、実施にあたってはかなりのエネルギーを要するので、会員のみなさまの一層のご協力を期待したいと思います。（安達久美子）



小樽ユネスコ協会会長賞
「天狗山の桜と小樽の街」

日本ユネスコ協会連盟会長賞
「うしおまつり」

小樽市PTA連合会会長賞
「小樽運河」



受賞作品一覧

☆小樽ユネスコ協会会長賞
「天狗山の桜と小樽の街」
小樽市立桜小学校６年　上川　莉歩

☆日本ユネスコ協会連盟会長賞
「うしおまつり」　小樽市立朝里小学校２年　山岸　小雪

☆小樽市PTA連合会会長賞
「小樽運河」　小樽市立高島小学校６年　村井　心

☆優秀賞（10名）
「小樽の船」　小樽市立望洋台小学校６年　植松　心晴
「小樽運河」　小樽市立潮見台小学校５年　渡邊　愛華
「300年の歴史をもつ住吉神社」
小樽市立桜小学校６年　米澤　徳子
「小樽運河」　小樽市立高島小学校６年　片岡　珠里
「旧手宮線線路」小樽市立手宮中央小学校６年　野宮祐太郎
「旧日本郵船」　小樽市立手宮中央小学校６年　吉倉　然太
「私の大切な風景」
小樽市立手宮中央小学校６年　岩本　花恋
「小樽運河」　小樽市立望洋台小学校４年　成田　一音
「しょうぼうしゃ」　小樽市立高島小学校１年　須藤優梨菜
「がんばれひまわり」小樽市立高島小学校２年　小柳　瑠泉

賞状を持ってニッコリ！

UNESCO TOPICS 2017

国際理解教育で JICA国際協力感謝賞受賞

―北海道ユネスコ連絡協議会 会長 大津和子氏―

元北海道教育大学副学長で北海道ユネスコ連絡協議会会長の大津和子氏が、2017年度「JICA国際協力感謝賞」を受賞されました。

氏は貧困や環境問題の視点から自国と世界のつながりを学ぶ国際理解教育の専門家で、著書「社会科＝１本のバナナから」は教材として全国で広く用いられています。

教育大札幌校助教授時代には何度もアフリカに通い、女性の教育推進や都市と農村の格差解消などについて学生と共に調査研究を続けました。その経験から、インターネットやテレビだけに頼らず自らの目で世界を知る大切さを訴え続けています。

UNESCO新事務局長 決まる！

2017年11月10日、第39回UNESCO総会での信任投票を経てオードレー・アズレー前フランス文化通信大臣が第11代UNESCO事務局長に就任（任期は４年）しました。

選挙期間中は「対話の場としてのUNESCOの重要性」を強調、ボコバ前事務局長に代わりこれからのUNESCOの重要な舵取りを担うことになります。

特に、アメリカやイスラエルが10月に相次いでUNESCOからの脱退を表明（正式には2018年12月末の脱退となる）今後更なる財政難に直面するUNESCOにおいて、新事務局長には厳しい船出となりそうです。

市立小樽図書館 ユネスコ世界文庫

昭和49年開設の市立小樽図書館「ユネスコ世界文庫」――世界へ目を向けグローバルな視野を養うことに役立つ図書の寄贈を続けてきた小樽ユネスコ協会の長寿事業です。

今年度も、カレンダーリサイクル市の収益から２万円分10冊の新刊図書を加え、これまでの累計は**1820冊**となりました。

開設当初は、会員の蔵書の持ち寄りで、雑多なジャンルの書籍の寄贈であった時期もあるようですが、その後は新刊図書でユネスコの理念に沿い上記のテーマで選定してもらっています。

２月18日、丸田会長・原田理事・安達事務局長が出席して図書館で贈呈式を行い、その後ただちに寄贈図書の棚に移されて貸し出されたところ、その日の内に全部市民の皆様の手に渡って利用されたという事でした。

今までの寄贈図書も含めて大いに利用されることを期待したいものです。

今年の寄贈本は次のようなものです。

- なくなりそうな世界のことば　（創元社）
- 全196ヵ国おうちで作れる世界のレシピ　（ライツ社）
- わたしは10歳、本を知らずに育ったの。　（合同出版）
- ぼくは13歳、任務は自爆テロ。　（合同出版）
- オリバー・ストーン オン プーチン　（文藝春秋）
- ドイツ通信「私の町の難民」　（柘植書房新社）
- 人間の営みがわかる地理学入門　（ベレ出版）
- 世界の廃墟・遺跡60　（東京書籍）
- 世界をまどわせた地図　（日経ナショナルジオグラフィック社）
- 謎を呼ぶ大建築　（日経ナショナルジオグラフィック社）

第8回小樽ユネスコカレンダーリサイクル市を終えて

環境委員長　丸　田　孝　子

節分の後、売れ残った恵方巻寿司がたくさん廃棄されたというテレビのニュースには、「ああもったいない。食べ物を棄ててしまうなんて」と憤りにも似た溜息をついたものでした。

4R（REFUSE 止める・REDUCE 減らす・REUSE 再利用・RECYCLE 再利用）は今や常識だからあの大量廃棄は誰でも違和感を抱いたに違いないと思いましたが如何でしょうか。

小樽ユネスコ協会カレンダーリサイクル市は、大きく言えばこの地球上の環境問題解決の一つを実践していると自負しています。

今回第８回目を迎えたこの催しは、2018年１月10・11日に小樽市総合福祉センターで、12・13日は長崎屋公共ホールで行いました。初日に北海道新聞の催しの紹介欄に記載があって、それを見たといって来て下さるなど開始前から行列ができる程でした。

８回目ともなれば準備をする会員も要領よくなり、気持ちよくオープンできたことは幸いでした。

総合福祉センターは１部屋を有効に使い、カレンダーは文字のみでも３ヶ月のもの、サイズ別、メモ欄ありなど区別して並べることができました。絵柄については風景や著名な画家の美術作品がついたもの、乗物、動物、スポーツなどおおよそ分けて選び易いようにしております。１年間付き合うカレンダーですから、じっくりと選ぶことができる会場づくりを心掛けました。

初日はこれまでにない200人余りの来場者があり、４日間を通して昨年以上に盛況であったことを会員一同嬉しく思います。

この催しの益金は全額世界寺子屋運動、東日本大震災ユネスコ奨学金、市立図書館ユネスコ世界文庫などへの寄付や募金などとして活用しております。

カレンダーのご寄贈からご支援下さいました方々、お買い上げによりご協力下さいました市民の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

もっとたくさんの「あした」を叶えるために

東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金

カレンダーリサイクル市収益金の使途のひとつである「ユネスコ協会就学支援奨学金」の概要は次のようなものです。

震災の津波による家屋の流失・損壊・原発事故による避難などの理由により、著しく経済状況が悪化した世帯の子ども達で、主に高校進学を希望する中学３年生を対象に、３年間にわたり１人当たり原則として月額２万円を給付（返還不要）しています。

岩手・宮城・福島３県のうち被害の大きかった市町村を特定して順次実施してきました。これまでに奨学金を給付した生徒数は2952名と日本ユネスコ協会連盟より報告されています。

今年の小樽ユ協からの支援募金は４万円でした。

奨学金受給生徒から届いた礼状

カレンダーリサイクル市狂騒曲！

理事　田澤真弓

2011年度から開催し始めた「小樽ユネスコ協会カレンダーリサイクル市」も回を重ねて８回目を迎えました。

今年は札幌ユ協の販売前の収集作業に小樽から３名が赴き、手伝いながら小樽ユ協の分を確保させてもらいました。

膨大な量の段ボール箱の荷物の中から、売れ筋を探し当てる気の遠くなるような作業が続きますが、ペットの可愛いらしい写真入りのカレンダーや使い勝手の良さそうな手帳、ダイアリーなどを見つけ、過去の経験から色々な種類を探し求めて、小樽行きのダンボールに詰め込みました。

今年は３名で行ったので、量的にも質的にもまあまあ満足のいくカレンダーを小樽販売用にいただいてくる事ができたと思います。

札幌“かでる２・７”での販売最終日に小樽から７～８名で札幌に行き、荷物を小樽に運んで翌日からの販売となります。

今回は福祉センター会場・長崎屋会場ともに平日でしたので多少の心配もありましたが、初日の行列には驚きました。

又、３日目の長崎屋会場は「大丈夫かな？」とドキドキでしたが、開店前から日めくりや好みのカレンダーを求めて人が押し寄せる騒ぎとなり、予約券を渡して混乱を収めた程でした。

私達もお客様のご希望に添えるよう一生懸命選んでくるのですが、けっこう難しい注文もあり、たかがカレンダーといえどもこだわりが強い人もいる事を改めて感じますし、日めくりは毎年大人気ですが寄付してもらうのも大変難しく、少ししか確保できないのが現実です。

なにはともあれ、世界寺子屋運動をはじめとするユネスコ活動にできるだけ多くの募金をしたい一心で、お正月早々厳寒期の怒涛の一週間を乗り越えていく私達です！

書き損じハガキ回収キャンペーン

今年度もご協力ありがとうございました！

2017年度は
書き損じハガキ863枚、
未使用切手11,352円分、
未使用テレカ３枚を、
お寄せ頂きました。日本ユネスコ協会連盟を通して、世界寺子屋運動支援に使われます。

1990年以来続いているキャンペーンで、全国のユネスコの仲間や企業などの協力により書き損じハガキの累計は1020万枚超となりました。

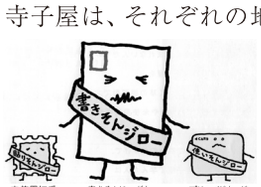
ハガキ以外に、未使用切手・プリペイドカード・商品券なども回収しています。

世界寺子屋運動

世界に学びのチャンス！

書き損じハガキ回収の募金を含め、日本ユネスコ協会連盟で集約した募金による寺子屋建設は、これまで43ヶ国１地域で520校、被益者数は約129万人に上ると報告されています。

寺子屋は、それぞれの地域の住民ニーズに依拠した学習拠点であり、それらの人々の主体性や内発性を重視して、継続運営ができる人材育成をも併せて支援していることに大きな特長があります。



大会参加報告

理事　菅　原　康　晃

第51回北海道ユネスコ大会in釧路
2017年度 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会

◎日　時　2017年10月14日㈯～ 15日㈰
◎会　場　北海道立青少年体験活動支援施設
　　ネイパル厚岸
◎テーマ　次世代へつなごう
　　～平和の絆・持続可能な社会へ～

小樽ユネスコ協会からは、吉田副会長と安達事務局長と菅原の３名で参加し、私自身は初めての道大会ということもあり厚岸に向かう道中は若干緊張した心持ちの中にあったと記憶しております。

無事、開会時間までに厚岸に到着し、早速１日目の開会式及び基調講演に出席となり、基調講演は「地域における教育の歴史と平和な未来」と題し、北海道新聞釧路支社報道部佐竹直子氏を講師にお迎えし、北海道綴方教育連盟事件（作文教育が罪にされた時代）について、約80年前の教育現場に起きた理不尽な事件の実像を語っていただきました。講演終了後、著書である「獄中メモは問う」を衝動買いしてしまう程の衝撃的な内容でした。　その後、フォーラム等を終えて交流会へと進み、道内各地域のユネスコ協会の皆様と交流を深めました。驚いたのは、素晴らしい料理のおもてなしで、ご当地の焼き牡蠣やローストビーフは大変美味しく、釧路・厚岸を存分に楽しむものでした。

２日目は、安達事務局長によるユネスコ国内委員会報告から始まり、実践発表やフォーラムを経て閉会式を迎え、全日程を終了しました。

今回、大会参加で感じたことは、ユネスコ道大会に参加することで得る知識もさることながら、同じ志を持つユネスコの仲間と同じ時間を過ごすことにより、連帯感を得られることにも大きな意義があるという事でした。

2018年は、函館市で全国大会が開催されます。せっかくの機会ですので、是非ともより多くの小樽ユネスコ協会のメンバーが参加することを期待いたします。

また、今大会の設えにご尽力いただきました、釧路ユネスコ協会の皆様に心より感謝申し上げます。

ユネスコスクール活動公開

――― 小樽市立高島小学校 ―――

事務局長　安　達　久美子

11月15日㈬、小樽唯一のユネスコスクールである高島小学校では、日ごろの教育活動を公開する“高島イベント”を開催しました。「ゆたかに学び　ひとみかがやく　たかしまの子」育成のために、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点から、活動内容を市内の先生方に向けて発表するものです。

生活科で体験したことベスト３（ワクワク体験・１年生）、探検したお店で調べたこと（まち探検・２年生）、小樽の市場で調べたこと（３年生）、水族館で調べたこと（４年生）、高齢者疑似体験（福祉・５年生）環境のために私達ができること・資源ゴミを使った遊び体験（環境・６年生）、といった内容を体育館や各教室で次々と披露しました。低学年から高学年へ、学びの視野を広げている様子を全員が体験できるように工夫されていて、生き生きと活動している姿が印象的でした。

小樽ユ協からは、丸田会長と安達が参加、最後に、先生方に向けて、「UNESCOの理念と民間ユネスコ運動について」を安達から、「小樽ユネスコの活動」を会長から、それぞれお話する時間をいただきました。地域ユ協としてユネスコスクールの活動に参加できた事は大変嬉しく思いますし、今後も協力していきたいと考えています。

なお、高島小学校では今年も書き損じハガキ回収にご協力いただきました。

あとがき

2017年民間ユネスコ運動は発祥70周年を迎えました。その記念すべき大会が７月15・16の２日間発祥の地仙台で開催され、平和への思いを未来へとつなぐさまざまなアプローチや発表がありました。

特にIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の議長を務め、2007年ノーベル平和賞を受賞したラジェンドラ・クマール・パチャウリ博士の特別公演は、消費してすぐに捨てる社会ではなく、一人ひとりが消費パターンについて自らの事として考え変えていく必要があると訴えて強く心に響くものでした。

「持続可能な社会」の構築は、今を生きる私達が担うべき重い課題であると再認識させられました。

さて2017年の小樽ユ協の事業活動をまとめた会報「小樽ゆねすこ」をお届けします。
ご高覧の上ご感想などお寄せいただければ幸いです。

広報委員　田澤真弓・安達久美子

会報「小樽ゆねすこ」第32号
2018年3月31日発行
小樽ユネスコ協会
事務局　小樽市花園５－10－１
小樽市教育委員会　生涯学習課内